

知的障害者を雇用し続ける素晴らしい会社

■「せめてあの子たちに働く体験だけでもさせてくれませんか？」

約50名の従業員を抱える小企業で、知的障害者がその7割を占める会社がある。ダストレスチョーク(粉の飛ばないチョーク)で3割のシェアを持つ神奈川県川崎市の「日本理化学工業」である。

この会社が知的障害者を雇い始めたのは、すでに50年近く前の昭和34(1959)年である。近くの養護学校の先生が訪ねてきて、近く卒業予定の二人を採用して欲しい、と依頼されたのが、事の始まりだった。

専務をしていた大山泰弘さん(現社長)は悩みに悩んだ。雇うのであれば、一生幸せにしてやらねばならないが、当時十数人の会社では、まったく自信がなかった。「うちでは無理です」と断ったのだが、その先生は2度、3度とやって来て、頼み込む。3回目には、[大山](#)さんをこれ以上悩ませるのに堪えられなくなって、こんな申し出をした。

[大山](#)さん、もう採用してくれとはお願いしません。でも、就職が無理なら、せめてあの子たちに働く体験だけでもさせてくれませんか？ そうでないこの子たちは、働く喜び、働く幸せを知らないまま施設で死ぬまで暮らすことになってしまいます。私たち健常者よりは、平均的にはるかに寿命が短いんです。

そこまで言って頭を下げる先生の姿に、[大山](#)さんは心を打たれて「一週間だけ」という約束で、二人の少女に就業体験をさせてあげることにした。

■「あの子たちを正規の社員として採用してください」

就業体験の話が決まると、子どもたちだけでなく、先生方や親も大喜びした。朝は8時始まりなのに、7時には会社に来た。それもお父さん、お母さん、さらには心配のあまり先生までが付き添ってきた。夕方3時頃になると、親御さんたちが「何か迷惑をかけていないか」と、遠くから見守っていた。

約束の一週間の就業体験が終わる前日、十数人の社員全員が「お話があります」と[大山](#)さんを取り囲んだ。

あの子たち、明日で就業体験が終わってしまいます。どうか、[大山](#)さん、来年の4月1日から、あの子たちを正規の社員として採用してください。もし、あの子たちにできないことがあるなら、私たちみんなでカバーします。どうか採用してあげてください。

これが、社員みな総意だという。それほど二人の少女の一生懸命の働きぶりは、みなを心を動かしたのである。簡単なラベル貼りの仕事だったが、二人は仕事に没頭して、「もう、お昼休みだよ」「もう今日は終わりだよ」と背中を叩かれるまで、気がつかないほどだった。本当に幸せそうな顔をして、仕事に打ち込んでいたのである。



有楽町マリオンの時計台のお人形もクリスマスバージョンに衣替え

■働くことによって得られる幸福

社員みな気持ちに添えて、**大山**さんは二人の少女を正社員として採用した。それ以来、障害者を少しずつ採用していったが、**大山**さんには一つだけ分からないことがあった。

それは彼らがミスをした時などに、「施設に帰すよ」と言う時、泣きながらいやがる事だった。どう考えても、会社で毎日働くより、施設でのんびり暮らしていた方が幸せなのではないか。ある時、法事の席で一緒になった禅寺のお坊さんに、この点を尋ねてみると、こんな答えが返ってきた。

そんなことは当たり前でしょう。幸福とは、(1)人に愛されること、(2)人に賞められること、(3)人の役に立つこと、(4)人に必要とされること、です。そのうちの(2)人に賞められること、(3)人の役に立つこと、(4)人に必要とされること、は施設では得られないでしょう。この三つの幸福は、働くことによって得られるのです。

こう聞いて、**大山**さんは、目から鱗(うろこ)が落ちるような気がした。「人間にとって『生きる』とは、必要とされて働き、それによって自分で稼いで自立することなんだ」と気づいた。

それなら、そういう場を提供することこそ、会社にできることなのではないか。企業の存在価値であり社会的使命なのではないか。これ以来、50年間、日本理化学工業は積極的に障害者を雇用し続けてきた。

・この会社の専務も偉いけど、養護学校の先生も立派ですね。お馴染み伊勢雅臣氏の「Japan on the Globe—国際派日本人養成講座」のメールマガジンN0571からの一部転載です。全文は以下で見られます。

<http://archive.mag2.com/0000000699/20081102063000000.html>

31000部の発行部数を誇るダントツ人気のメールマガジンですからご覧になった方も多と思いますが、これは感動ものでしたのであえてご紹介致しました。こういう実話には弱いのです。バックナンバーみると、本当にいろいろと参考になります。

カテゴリ: [コラム](#) フォルダ: [指定なし](#)   

[コメント\(4\)](#)

タグ: [知的障害者](#) [日本理化学工業](#) [伊勢雅臣](#) [国際派日本人養成講座](#) [働く幸せ](#) [養護学校](#) [企業の存在価値](#)

コメント(4)

[コメントを書く場合はログインしてください。](#)



Commented by **さん**

2008/11/10 11:07

花うさぎさん、初めまして！
感動しました。本当に立派な人達だと思います。



Commented by **花うさぎさん**

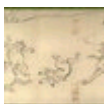
2008/11/10 12:42

To obcbbcさん

はじめまして。

>感動しました。本当に立派な人達だと思います。

こういう話を聞くと日本もまだまだ捨てたものではないと感ずますね。



Commented by **風来坊さん**

2008/11/10 16:15

感動的な話ですね。

関係者のいずれも偉かったが、何よりも障害者自身が立派だった。障害者に自立の精神があった。昭和34年と言えば、「もはや戦後ではない」と言われた時代ですが、日本人はまだ戦前の精神を持ち合わせていた時代でした。その精神を今も持ち続けていることが嬉しい。

金美麗さんは、先日の産経のコラムに、

「個人破産しても大した弊害はないと言う前に『真面目に働いて、税金を払う喜び』をなぜ説かないのか。メディアは真っ当に生きている者ではなく、『弱者』にばかりウエートを置く報道をしている。税金を納め弱者を救済する側にエールを送らなければ、福祉制度は崩壊する。」

と書いていました。

弱者づらした強者が蔓延り、無責任が闊歩する今の時代への強烈な警鐘でした。

2008/11/10 16:57

また、[ドイツ](#)に嫁いだ日本人女性は、メルマガ「頂門の一針」に概ね次のようなことを書いていました。

「9か月の兵役義務に服した息子が短期間で目を見張るほどに変わった。成熟した成人になるためのドイツの基礎教育を受けたからだ。日本の若者にもこの体験は必要だ。この体験の有無が国の将来にかかわってくる。

成熟した成人になるための教育とは、

▼長髪を短髪に、一部屋5名の古い兵舎での共同生活、例外なしの起床・就寝時間、素早い行動、上下関係を大切に、規則を守り、挨拶・報告・確認の練習、テレビは禁止、整理整頓の徹底、不完全だと全員でやり直し。

▼整理整頓は[ドイツ](#)文化のバロメーターであり自己管理能力の1つ、戦争時には命にかかわる。頭の中も整理でき、何よりも自分を助け、自分の人生を楽にする事に繋がる。

▼要するに、自分の大切な人生を貴方任せにしないで自分で管理をしろという教育であり、民主主義の原点の1つだと教えるのだ。」

つまり、日教組教育の逆がドイツの教育なのであって、別に難しいことを教えているわけではないのですよね。



Commented by [花うさぎさん](#)

To 風来坊さん こんにちは。

>何よりも障害者自身が立派だった。障害者に自立の精神があった。

ご指摘はその通りですね。

>メディアは真っ当に生きている者ではなく、『弱者』にばかりウエートを置く報道をしている。税金を納め弱者を救済する側に[エール](#)を送らなければ、福祉制度は崩壊する。

これは私も読んで、さすがは金美麗さんだと感心していました。

>日教組教育の逆がドイツの教育なのであって、別に難しいことを教えているわけではないのですよね。

これは良いお話を(^ ^)。これは戦前に日本も当然のようにやってきた事だと思います。やはり道徳を破壊した日教組は絶対に許せない存在です。